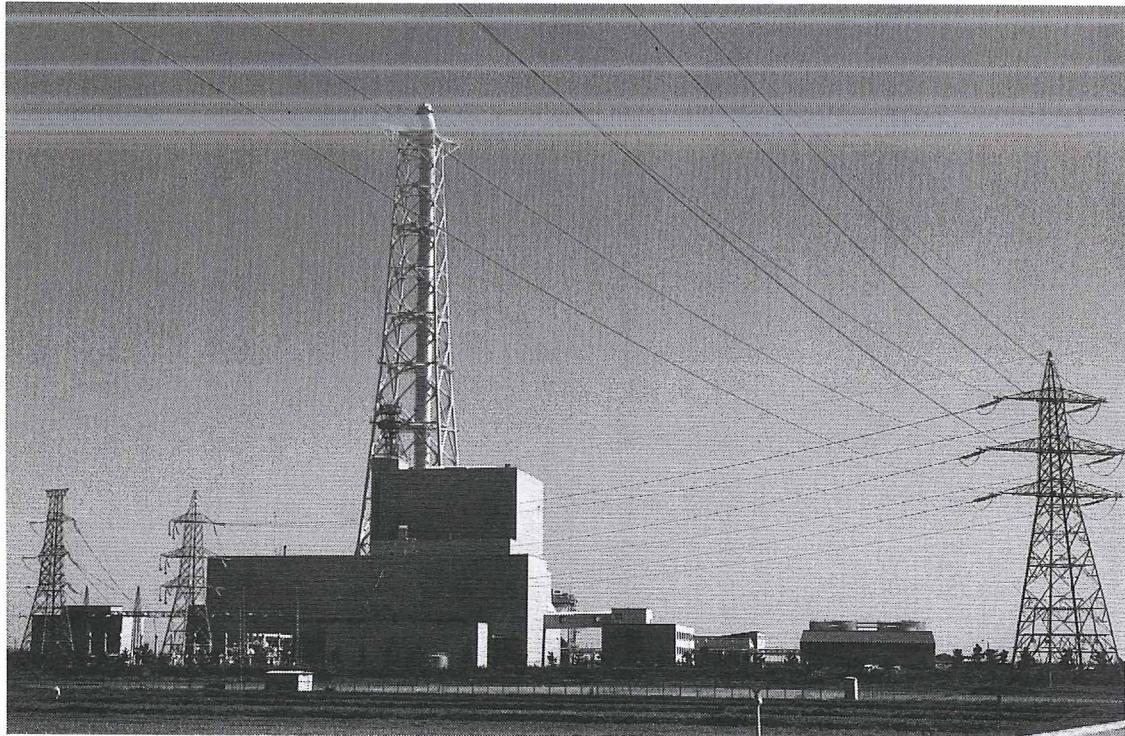


いなづま

題字 小寺寛一

発行所 函館地方電気工事協同組合
 編集総務部
 住所 函館市日乃出町7番22号
 印刷所 畠山印刷



北海道電力株内発電所 最大認可出力 35万KW 58年12月 竣工

昭和六十二年度（第三十九回）通常総代会が、去る五月二十六日組合会議室において開催された。定刻二時、坂本事務局長の開会宣言に次いで大倉理事長があいさつに立ち、

昭和六十一年度事業計画に対して特段のご協力をいただき、このように不景気な中で無事にすんだことに感謝する。

経済状勢は決して良くなく、我々電気業界は建築その他他の不況の風をまともに受けて非常に悪い年であったと思う。電気工事業界においても電気工事士法ならびに電気工事業法の改正等をスローガンとして色々な面で努力をしてきた。

又、建設省から提案された電気工事施工管理技士制度も一緒に国会で審議されて通る予定であったが、年度当初の国会の解散、衆参ダブル選挙、地方選挙等さまざまなことがあって二つとも並行して止まっている状態である。

テレビ等でご承知の通り、衆議院運営委員長の職にある四国越智理事長が精力的に両者に働きかけ、いづれにしても今国会あるいは臨時国会で両方共通過する予定になっている。

北海道の状況についてはいまでもなく非常に景気が悪い中で、北海道電力の売上が伸び悩んでいると、いうのが六十年度から六十年度にかけての実態であるが、実績は昨年度からの伸びが九十四%と六%減で、配電工事を含めて我々の電気工事というものの総体的な低下が今日を迎えている訳である。

このような中で組合として目ぼしい事としては、北

第39回

通常総代会

開催される。

電が昨年までやっていた計器の取扱を組合が委託したということである。結果は良好に推移して当初の予定に対し百五十%程の成績を残した。勿論昨年度良かったということは新年度ならびに来る年度は逆に下がるということが予想されるが……大変な時期に直面しているので極力ご協力を願う。

と述べた。

議長選出では、藤電気工事㈱の佐藤悌史氏、副議長



には三和電気商会の奈良正氏が選ばれて議案の審議に入った。

第一号議案

昭和六十一年度事業報告、財務諸表及び剰余金処分案について承認を求める件

については、受取利息について利率の高いものを利用するべきであるとの意見が述べられ承認を得た。

第二号議案

組合創立四十周年記念事業に係る特別案について承認を求める件

第三号議案

賦課金の微収について

は関連性があるので一括上程された。

適正価格維持のための指導についての具體案の説明

を求める質問等があり承認された。

第四号議案 定款の一部変更について

は異議がなく承認された。

以上第一号議案から第四号議案についてすべて可決し、午後四時十分閉会した。

役員会だより

第一回役員会

六二・四・二二

一、慶弔報告

(一) 北盛電工㈱代表者尊父逝去
(二) 林電工代表者尊父逝去

二、貸付報告

五社 一二〇〇万円

三、各支部報告並提案事項

特記事項なし

四、総務委員会事項

(一) 代表者の変更

共栄電気工業㈱ 深見秀治 (旧山崎鉄雄)

・ 協信電気工業㈱ 工藤定一 (旧鶴沢芳雄)

(二) 年末特別融資利率の改訂について

新利率 六・五〇% (旧六・七五%)

(三) 総代会について

総代会の日時、場所、提出議題について審議決定した。

(四) 昭和六一年度收支決算について

(五) 剰余金の処分案について

(六) 昭和六二年度事業計画案ならびに收支予算案について

(七) 組合創立四十周年記念事業に係る特別賦課金の徴収について

(八) 組合譲渡・譲受加入について

㈱トーラス電工舍—トーラス電工舍 (承認)

(九) 組合新加入申込者の審査について

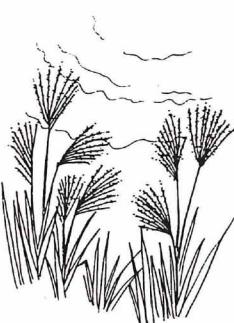
加入申込者四社について各該当支部の意見を含めて審査の結果全員加入を承認した。

(十) 電気保安功労者表彰の推せんについて

技術・教育委員会事項について

現場管理責任者研修会の報告

(十一) 主任電気工事士研修会の報告



一、池上電気工業所 (代表者池上光勇) 中支部
二、榎電気 (代表者榎義夫) 北支部
一、㈲高橋電設工業所 (代表者高橋勝英) 福島支部
一、巴電工舎 (代表者加藤幸雄) 東支部
一、㈱平大電工 (代表者吉田汎) 中渡島支部

脱退者名簿

- (二) 北電有償譲渡資材一覧表および払出手帳について
て
四、電気工事士試験のための特別訓練について
- 六、事業委員会事項
- (一) 全日電工連第三者損害賠償制度等実績資料について
引込以下工事の分について、従前通り組合負担
で全員加入することに決定
- 第二回役員会 六一・五・一六
- 一、慶弔報告 なし
- 二、貸付報告
- 三、各支部報告並提案事項
- 四、総務委員会事項
- (一) 会計期末監査報告
- 二、代表者の変更
㈱トーラス電工舎 熊谷文孝 (旧熊谷浩四郎)
- (三) 総代会について
- (四) 組合創立四〇周年記念式典について
- (五) 昭和六三年度北海道電気工事業工業組合移動役員会の開催について
- (六) 「青函博」の前売券について
- (七) 組合脱退申込みについて
富士技研 (廃業) 承認
- (八) 脱退者持分未払金の支払いについて
- (九) 事務局職員給与改訂および夏期手当について
- 五、技術・教育委員会事項
- (一) 電気工事士試験(学科)に対する特別訓練の報告
- 六、事業委員会事項
- (一) 北電計測器類受払業務委託実績について
- (二) 第三者損害賠償制度等実績資料について
- (三) 第三者損害賠償制度の加入について
- (四) 引込線受託工事業者 二〇七件

- (一) 外線工事業者 三一件
- 三、全日電工連政治連盟会費について
- 四、安田生命企業年金保険料について
- (一) 佐藤電気商会代表者母堂逝去
- (二) 日成電気工事代表者母堂逝去
- 第三回役員会 六一・七・三
- 一、慶弔報告
- 二、貸付報告
- 一二社 四六〇万円
- 三、北海道電気工事業工業組合移動役員会の報告
- 四、各支部報告並提案事項
- 五、総務委員会事項
- (一) 事務局職員夏期手当の支給報告
- (二) 適正価格維持のための打合会議
- (三) 東支部および赤川支部において一般住宅における電気工事の価格が安いので、対策を講じて欲しいとの提案があった。
- (四) 北電関連工事安全衛生協議会について
- (五) 組合譲渡・譲受加入について
㈲西川電気商会→西川電気商会(承認)
- (六) 組合創立四〇周年記念事業について
日時・場所について次の通り決定
日 時：六三年三月四日(金)
式典 午後四時
祝賀会 午後五時
場所：国際ホテル
- (内) 「青函博」前売券について
- (七) 建設工事の請負契約の適正化及び請負代金支払の適正化等について
- 六、技術・教育委員会事項
- (一) 電気工事試験のための特別訓練について
- (二) 北電屑銅線類売却単価について
- (三) 消防設備工事試験実施について
- (四) 試験日 六二年八月三〇日
- 四月六日 定期健康診断(受診者二〇一名)
- 9日 北支部会議
- 13日 正副理事長会議
- 全日 電気工事士試験委員会に大倉理事長出席
(於北電)
- 15日 労働保険年度更新事務の取扱
- 17日 北電関連工事安全衛生協議会に大倉理事長出席(於北電)
- 全日 青年部第四回通常総会(詳細前号掲載)
- 全日 団体事務長会運営委員会に坂本事務局長出席
- 1918年
1918年
21日
22日
24日
27日
28日
- 赤川支部研修旅行(於札幌市)
第一回役員会
道工業組合役員会に大倉理事長、吉田副理
事長出席(於札幌協組)
北海道電気工事業厚生年金基金代議員会に
大倉理事長出席(於札幌協組)
中渡島支部会議
北海道旅客鉄道創立披露宴に坂本事務局
長出席(於国際ホテル)
団体事務長会総会に坂本事務局長出席
全日電工連互助会に大倉理事長出席
(於東京都)

組合行事

- 七、事業委員会事項
- (一) 第三者損害賠償制度等実績資料について
- (二) 第三者損害賠償制度加入状況
- (三) 全国電気使用安全月間について
- 全日 定期健康診断(受診者二〇一名)
- 9日 北支部会議
- 13日 正副理事長会議
- 全日 電気工事士試験委員会に大倉理事長出席
(於北電)
- 15日 労働保険年度更新事務の取扱
- 17日 北電関連工事安全衛生協議会に大倉理事長出席(於北電)
- 全日 青年部第四回通常総会(詳細前号掲載)
- 全日 团体事務長会運営委員会に坂本事務局長出席
- 1918年
1918年
21日
22日
24日
27日
28日
- 赤川支部研修旅行(於札幌市)
第一回役員会
道工業組合役員会に大倉理事長、吉田副理
事長出席(於札幌協組)
北海道電気工事業厚生年金基金代議員会に
大倉理事長出席(於札幌協組)
中渡島支部会議
北海道旅客鉄道創立披露宴に坂本事務局
長出席(於国際ホテル)
団体事務長会総会に坂本事務局長出席
全日電工連互助会に大倉理事長出席
(於東京都)

- 七、事業委員会事項
- (一) 第三者損害賠償制度等実績資料について
- (二) 第三者損害賠償制度加入状況
- (三) 全国電気使用安全月間について
- 全日 定期健康診断(受診者二〇一名)
- 9日 北支部会議
- 13日 正副理事長会議
- 全日 電気工事士試験委員会に大倉理事長出席
(於北電)
- 15日 労働保険年度更新事務の取扱
- 17日 北電関連工事安全衛生協議会に大倉理事長出席(於北電)
- 全日 青年部第四回通常総会(詳細前号掲載)
- 全日 团体事務長会運営委員会に坂本事務局長出席
- 1918年
1918年
21日
22日
24日
27日
28日
- 赤川支部研修旅行(於札幌市)
第一回役員会
道工業組合役員会に大倉理事長、吉田副理
事長出席(於札幌協組)
北海道電気工事業厚生年金基金代議員会に
大倉理事長出席(於札幌協組)
中渡島支部会議
北海道旅客鉄道創立披露宴に坂本事務局
長出席(於国際ホテル)
団体事務長会総会に坂本事務局長出席
全日電工連互助会に大倉理事長出席
(於東京都)

5月2日	八雲支部総会（於今金町桜田旅館）
12日	商工中金懇話会に坂本事務局長出席 （於商工中金）
14日	総務委員会
15日	東支部会議
18日	団体中央会道南支部通常総会に坂本事務局 長出席（於五島軒）
19日	中支部会議
22日	電気工事士試験のための特別訓練打合会議 （受講者一二名）
2220日	電気工事士試験（学科）のための特別訓練 （受講者一二名）
22日	道工業組合役員会に大倉理事長、吉田副理 事長出席（於札幌協組）
23日	中渡島支部会議
23日	電気工事価格適正委員会
26日	第二回役員会
26日	第三回通常総代会（詳細別掲）
27日	小規模企業振興委員連絡会議に坂本事務局 長出席（於函館商工会議所）
28日	全日電工連通常総会に大倉理事長出席
29日	（於東京都）
6月2日	道工業組合四役会議に大倉理事長出席 （於札幌協組）
4日	北電関連工事安全衛生協議会に細川副理事 長ほか二名出席
5日	いなづま編集会議
10日	「青函博を成功させよう会」に細川副理事 長出席
12日	東支部会議
16日	正副理事長会議
18日	赤川支部会議
18日	団体事務長会運営委員会に坂本事務局長出 席

7月1日	南北海道協組創立三五周年記念式典に大倉 理事長出席
3日	第三回役員会
7日	全日本電力関連工事安全大会に大倉理事長、細川 副理事長出席（於北電）
10日	建災防協会函館分会総会、幹事会に佐々木 （三）理事出席（於建設会館）
16日	東支部会議
16日	全日電工連互助会に大倉理事長出席
17日	新加入組合員業務説明会 （於東京都）
18日	中渡島支部会議
18日	函館市町連外灯部長会議に坂本事務局長出 席（於北電）
20日	道工業組合役員会に大倉理事長出席 （於札幌協組）
21日	中支部会議
22日	赤川支部会議
2422日	電気工事士試験（実技）のための特別訓練 （於北電）
25日	八雲支部ボランティア実施
29日	小規模企業振興委員連絡会議に坂本事務局 長出席（於工業技術センター）
30日	北支部会議

組合員消息

一、五月三一日	佐藤電気商会代表者佐藤勇太郎 殿ご母堂佐藤スイ殿ご逝去
一、六月二五日	日成電気工事代表者成田一雄殿 ご母堂成田キヨノ殿ご逝去
一、七月一九日	函館拓北電業株代表者吉田要殿 ご母堂吉田ブン殿ご逝去
一、七月二七日	前田電気商会従業員前田紀正殿 ご逝去
一、八月八日	前田電気商会従業員前田紀正殿 ご逝去
一、九月五日	（株）東福電機工業代表者東福洲二 郎殿ご尊父東福彦四郎殿ご逝去
一、九月五日	（株）平井電氣代表者平井行衛殿 ご逝去
一、九月五日	母堂平井タマ殿ご逝去
一、九月五日	（株）北電工専務取締役山口進平殿 ご逝去

組合員の異動

||商号・住所・住居表示の変更||

(新)

(旧)

一、第一電気工業㈱（北支部）
函館市富岡町一丁目

二一一八
一〇一三

一、㈲西川電気商会（中渡島支部）西川電気商会
ツボ電設工業（中渡島支部）ツボ電気商会

一、藤電気工事㈱
電話八三一三三五五

一、松橋電気（東支部）
函館市戸倉町二〇一一二函館市戸倉町三三一六

一、函館市戸倉町二〇一一二函館市戸倉町三三一六

一、函館市昭和四丁目六一六函館市白鳥町三一六

電気保安功労者 の表彰

◎ 札幌通商産業局長賞

(個人の部)
大倉電気㈱



大倉伸夫氏

◎

北海道電気安全委員長賞

(電気工事業者営業所の部)
佐藤電気工事㈱

佐藤征次氏



新加入組合員の紹介

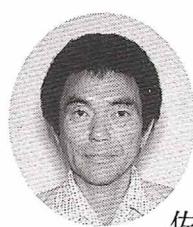
マサミ電工
佐々木政春

昭和六二年度新加入の四名の方を
ご紹介いたします。

(加入月日) 昭和六二年四月一日

古川電気商会、高丘電気を経て、昭和六一年六月
函館市亀田中野町二八一三
電話 四六一〇一三三三

独立開業



昭和二三年二月五日生

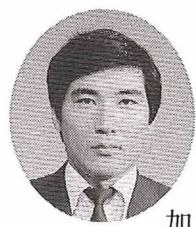
車電工社
車 康平



昭和二十四年二月二十五日生
函館市昭和二丁目三一三
電話 四一一七八五九

独立開業

西興電設
西興我節夫



昭和二十五年一月三日生
龜田郡七飯町東大沼三三三
電話 六七一二四七三

西川電気商会、興亞通信電設㈱を経て、昭和六一年
一〇月独立開業

小向電設
小向富士男



昭和二十五年四月二三日生

上磯郡知内町字元町三三七
電話(0353)五六二一八〇

独立開業

昭和四一年四月(南)高橋電設工業所を経て、昭和六一
年二月独立開業



昭和六二年度の電気保安功労者として、去る八月五
日札幌市の共済ビルで開催された電気安全大会におい
て、それぞれ表彰されました。
これは、電気安全について毎年に亘り保守保安の運
営並びに教育が充分行なわれて居り、他の模範として
認められたもので、普段の努力と功績の賜とお慶び申
しあげます。



中国に魅せられて(二) その2

娯楽は映画が全盛であったが、テレビの普及で最近は映画館も空席が目立ちはじめた。農村はテレビが娯楽の主流となる。藩さんの説明を聞きながら日本もかつてはこのようであった。中国が今、吾々の歩いた道を歩いているに過ぎないとつくづく思つた。

自治区は税金が少なく首席はその地区の少数民族から出て就任する。漢民族は書記に就任する。すべての事が中央に報告される仕組である。言葉も生活様式も違う少数民族を統一するには、その民族の中から首席を出した方が管理上得策であろうと思う。西域には少数民族の五パーセントぐらいしか漢民族は住んでいないと言うから、首席よりも書記の方がいいだろうし、又漢民族の方が教育が進んでいるので書記に就けると言つ事は正解な政策だと思う。

食品はトリ肉が高い。牛肉は安い。庶民の食事はつましくギョウザだけで一食、ラーメンで一食と言う事である。日曜日は休みで八時間労働である。

誕生日などの御祝料理にはラーメンに赤く染めた卵などを入れるが、それもだんぐり少くなり最近若い人達はケーキなどに変わった。

中国の若い人は恋愛結婚が多いか見合結婚が多いかとの質問に対して、藩さんはどちらもあり又結婚紹介所に申し込む人もあると答えていた。

車は曲ることもなくゴビの一本道を走る。この一本道に沿つて電線が延びている。架線工事をしている人達をたまたま見かける。これから建柱するのだろう砂

漠に電柱が点々ところがっている。電柱が細く短かいので電話か有線放送かと思い藩さんに聞いたが、有線放送と言う事がわからないらしい。首をかしげていた。急に助手席に坐っていた藩さんが右手前方に「蜃氣樓」が見えると言う。皆、眠気の目をあけて右の窓を見た。細く一本の薄青い線がずっと向うの地平線に見える。車が進むにつれ、気温が上るにつれてだんだん巾も広がり太い線になり、ついに車の進行地平線一面が青くなる。「蜃氣樓」は地面が熱せられ空気の密度に変化を来たして、光の屈折が異常な状態となって起る現象である。薄青い色がしばらくつづいたが何時消えたのか見えなくなってしまった。古代の旅人が湖と見まらがえて沙漠で迷子になるのが理解出来た。太陽の下青いものがユラユラとゆれている感じは、湖面がチカチカと光っているのと同じ感じである。誰もが湖と思って必死になつて歩みを進めるのが理解出来た。太陽の下青いものがユラユラとゆれている感じは、湖面がチカチカと光っているのと同じ感じである。誰もが湖と思つた。自然とは人智の外の現象が突然起るものである。今日は四十五度だと言う。

ついでに蜃氣樓に関する事に触るとよく車などに乗つてアスファルトの道を走つていると、前方に黒く水でも撒いたようになつてゐるのを見る事がある。そこ迄近づくと全然ぬれてなどいはず、その路面の黒はすっと先に逃げてゐる。これを「逃水」(にげ水)と言う。そしてこの逃水も蜃氣樓の一つである。

バスは小休止で「橋湾城址」の入口でストップ。城

址に行つても砂に埋もれた土塊だけなので入口でバサを降り外の空氣を吸う。しかし見えてるので足に自信のある人は出かけていった。六年前に来た時は風があつて砂を巻き上げていたので、マスクをし武装して城址の中に入り砂の中に埋もれているものを掘り出しだが、今回は遠景に土塊を見ただけである。今でも砂を掘つたら前回同様いろんなものが出て来ると思う。前回の時古錢を拾つた人、ヤジリをひろつた人達が大よろこびをしていたのを思い出す。

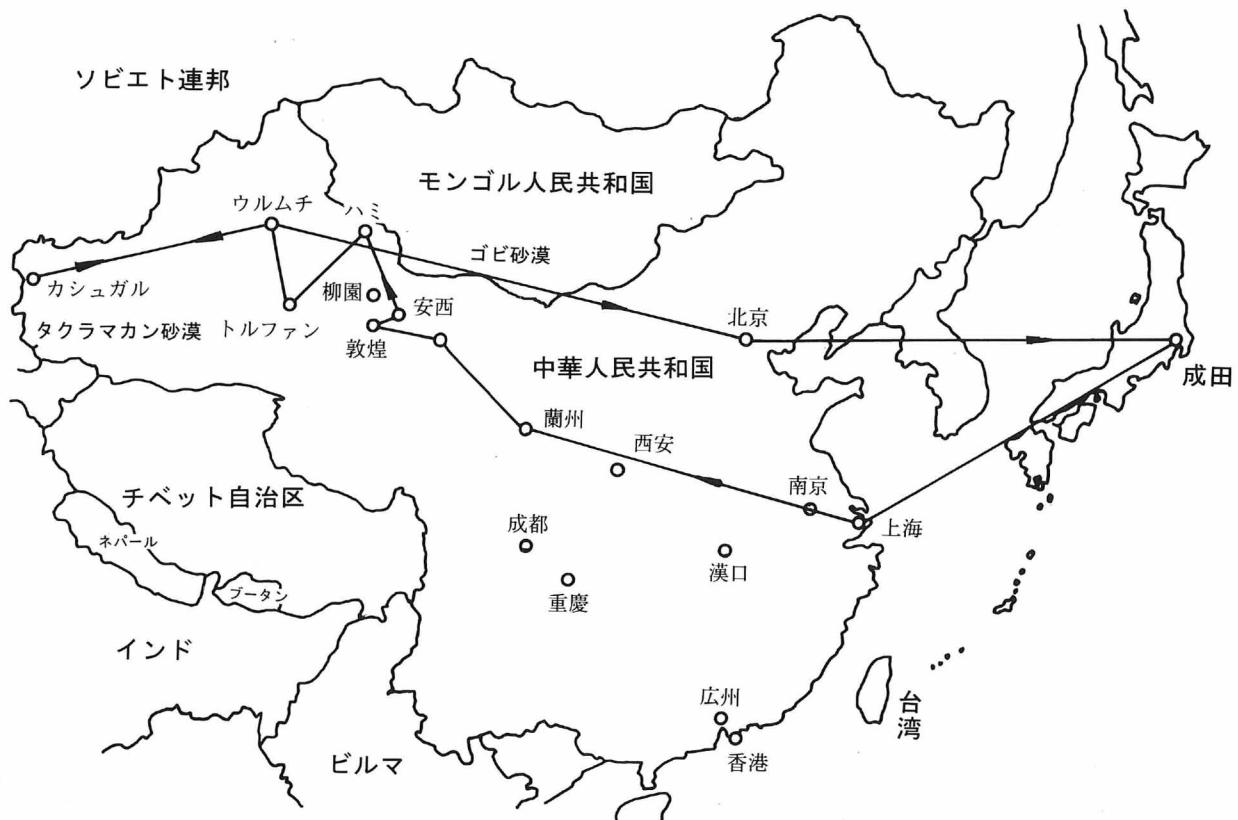
十二時五十分、安西の招待所に到着、昼食をとる。前回と全く同じ門であり、看板であり、建物である。私の泊つた長屋のような建物も中庭もそのままである。違つているのは当時開放軍のカマボコ屋根の兵舎が道路の向う側に幾棟も建つてをり、軍用トラックが道路沿いにズラリと並んでいたが、今日はトラックはおろかカマボコ屋根が全々見えない。軍の基地がどこかに移転したのだろうか。

前回泊つた時のトイレは外だった。懷中電灯を持つて夜中パジャマのまま出かけたのだが今來て見ると内にある。しかしこのトイレは前回来た時にもあつたのではないかと言う気がする。男女共用だから外にある男女別々のを吾々日本人に使用させたのではないかと思う。共用でも一人づつなら家庭の洋式を考えればいいが、十人一緒にドアなし、「廁」と書いた白布がドアの代りに室の入口にぶら下つてゐるだけ、まだくの感が深い。

食堂に手を洗う水道の栓があつた。皿に白い粉が入つたのが置いてある。イヤに艶がないと思つながら一寸つまんでみる。「ミガキ砂」で驚く。

昼食後ふたたび甘新公路を敦煌に向けて出発する。天にも届くようにスクーとのびたポプラが風にゆれてユサユサと音を立ててゐる。前回も相当の風だったが今日も風がある。

中国に「閑外三絶」と言つて三つの絶対のものがあ

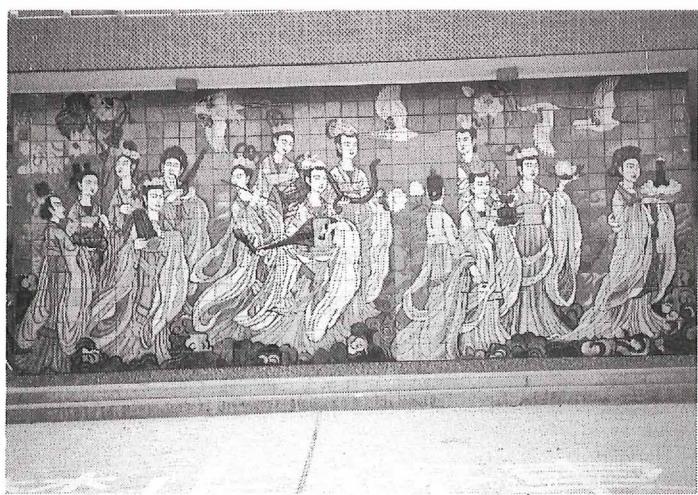


(二)火州(トルファン)の暑さ
(三)ハミの寒さ

と言う。前回のゆれていたボプラを目に浮かべる。安西の「布隆吉」と言うところは最も風の強いところである。風が地面をけづり取り、その削られた土が積み重なり奇怪な地形を作っている。井上靖先生の手記に私の小説「敦煌」を書く時、この「布隆吉」の地形を知らずに書いた。もし知っていたなら戦闘の場面は違っていたと思う。この土塊の陰にかくれたり、ひそんで敵をおそつたり凄惨な場面は違っていたと思う。

と書かれている。

午後四時、目的地「敦煌」の町に入る。ホテル「敦煌賓館」の正面入口の壁に「莫高窟」の壁画が描かれていた。等身大に描かれた供養者像である。さすが莫



とんこうホテルの玄関壁

高窟に来る人を泊める施設だけあって前回泊ったホテルとは雲泥の差である。商店も大きく莫高窟の壁画「飛天」の中国刺繡を実演していた。若い女性が二人、さく見事である。コツコツと仕事は中国人の忍耐にかなはないのではないかと思う。

鳴沙山

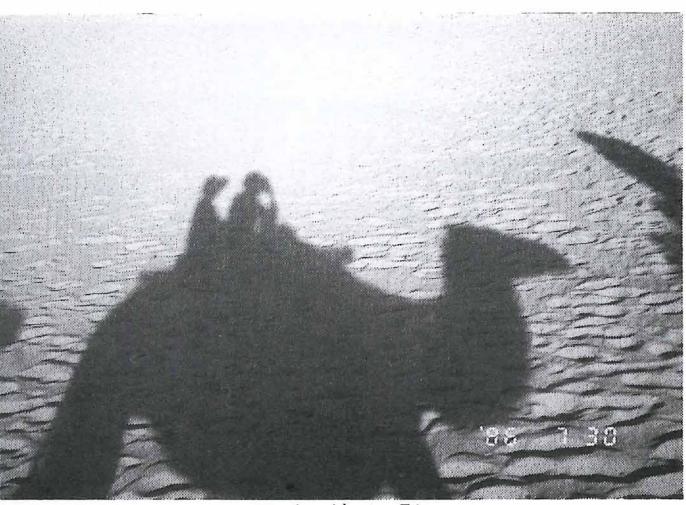
夕食後「鳴沙山」に登る。日中は砂の照り返しで暑さが大変だとの事、前回も夕食後だった事を思い出す。だがあの時は少し霧が降っていてビニールのコートを着たので蒸し風呂だったが…。

中国もこの五一六年の間に随分と変わった。ホテルもそうだが鳴沙山にまで入場料をとる。前回などは行き

たければどこでも好きなところから勝手にのぼればかりに、すべてオープンだったが、現在は建物が建てて正しく閑所である。閑所の通過料を支払って門扉をくぐる。ヤレ〜である。

中に入るとラクダが何頭も客待ちをしていた。月牙泉まで片道一人五元、二人乗りだと八元と言う。ラクダには前回一分間でもコリしているのだが、今日のはラクダの両側に棒を取りつけて足がかけられるし、つかまる事も出来て一応乗物としての体裁は整えている。妹は初めてなのでウキ〜として大よろこびだが私はシブシブ二人乗りを選ぶ。馳者が沢山たむろしてをりラクダも乗る客が来るまで砂に坐っている。同行のほとんど人がラクダを利用したが、まだ客にありつけないラクダが十五~六頭もいた。砂漠の船と言われるラクダは一日約三十キロぐらいは歩くと言わっている。

ラクダは吾々を乗せてゆらりと立ち上がりボコボコと砂地を歩きはじめた。夕陽を受けてラクダに乗った姿が砂地にあざやかなシルエットを画く。幻想的な画材である。



ラクダの影

月牙泉まで鳴沙山の裾をぐるりと廻る。月牙泉は鳴沙山の向う側の麓にあり三日月の形の砂地に湧く泉である。生物が棲息すると言うから水は湧き流れているのだろうが、出口が見えないとそこを見ると砂地の伏流となっているのだろう。

ラクダの歩きはそんなに早いとは思はなかった。馳者は砂地を歩くコツを心得ているのか、手づなを引きながら四本足について来る。月牙泉で降りてからしきりにすゝめる帰りのラクダを断はり、砂地を歩く事も経験と私は泉のほとりで一休みした。妹はハリキリで鳴沙山に挑戦している。

ロバがつながれていた。吾々外国人の観光客ばかりでなく中国人の観光客が沢山来ていたから、西瓜や荷物を引いて来たのだろう。ロバはおとなしい動物である。そばに寄つても知らん顔である。首をさすつてやつたがまたきもしない。ロバと一緒にカメラに納まる。ロバは一寸首を振つただけで剝製の如くジッ

莫高窟

敦煌の町は変わった。私が莫高窟にあこがれて開放後すぐ来てから今回は二度目で六年が経過している。の時は設備も整はず全く客の受け入は後手に廻っていた。

こちらも開発途上国とはこんなものかと、目的は莫高窟なのだから野宿しないだけいいと思っていた。三交替の労働者は自分に与えられた仕事をこなす為、外国人観光客が寝て居ようが食事をしていようが関係なしで、ガタ／＼一晩中作業をしていた。よく疲れなかつた事を思い出す。

現在の敦煌の町は先ず町の中心に莫高窟の壁画をモルにした白い像が建つ。「反弹琵琶」と称して背に琵琶を廻し、しなやかに身体をくねらせた女人の像である。材質が何であるのか純白で美しい。玉石の白さではなくあたたかい、やわらかい感じの像である。

窟の見学は午前中だけだったので興味は半分にも満たない。それに昨年（昭和六十年）の十二月に人の手の届く位置迄、壁画の前に一枚ガラスを廻してしまい肉眼で壁画を見る事が出来なくなつた。ガラスに鼻を押しつけて壁画を見てもよく見えず、イメージダウンもいいところである。藩さんの話だと壁画が傷められたり一部盗まれたものもあるとの事であった。防衛手段なのだと言われば返す言葉はないが、私は開放直後この目であるだけ見てるので今こんな設備をされると、多少宿泊の設備が悪からうと開放直後でよかつたと思う。だが傷めたり盗んだのは日本人でない事を祈る。多分自國の人ではないかと思う。外国人なら持ち帰る事はおろかかくす事さえ出来ない。現地案内人がつかなくては入窟出来ないし、鍵もかかっているし勿論カメラも厳禁である。

莫高窟をみるにはポイントだけでも一日も二日もかかるのに、半日の見学など一体どこと何処をコースに組み込んだのか、何回見てもいいと思ってきたのに心底不満を持った。

メモをして来た肝腎の四五・八五・一七五・三三二・三三九・四四四是全部ダメだった。現地の案内人に四四を見せないのかと質問したら時間が足りないとあっさり交ざれてしまった。莫高窟を期待して始めて来た人達はさぞ残念であった事と思う。二七五の交脚歩道を、四五の觀音菩薩像を目指した人達はがっかり

りしていた。その上ツーリストの連絡が悪く懐中電灯を持参しない人が数人をり、他人の火でガラス越しに見る壁画は興味半減である。切角来たのに思うとお気の毒な事と言う外はない。

十七窟は前回見て帰国してから更めて資料を読み、学者の研究発表をメモして來たので尚さら興味深く正面に坐している洪晉の顔をしげしげと眺めた。

この日も昨日と同じく気温四十五度、「陽閏」の見学は明朝の涼しい時にとの事で午後は「白馬塔」の見学となる。白馬塔は高さ十二メートルで麦畠の真中に建つ供養塔である。鳩摩羅什の乗つて来た白馬の死骸を埋めた処と言う。

鳩摩羅什（三四四—四一二）はインド人を父とし、龜茲國の王族の娘を母としてキジ国に生まれる。四〇一年長安にて「法華經」をはじめ「阿彌陀經」「中論」「大智度論」など三五部の經典を漢訳、四大訳経家の一人である。門下生が多くあり「三論成実宗」のもとを作った。

中国に仏教が伝はったのも敦煌であり、四世紀の中國に莫高窟が開鑿されたと言うから、鳩摩羅什は丁度頃に莫高窟が開鑿されたと言ふから、鳩摩羅什は丁度時を同じくして活躍したと伝えられる。

次号へ続く

◎年末特別融資の受付

昭和六二年度年末特別融資の申込を受け付けて居ります。期限は一〇月一五日までです。希望者はお忘れなくお申込み下さい。
詳細についてはすでに通知済みです。



事務局職員の大谷紀子さんが七月三一日をもって退職されました。

昭和五七年四月に勤務してから、主として保険業務を担当して居りましたが、約五年余の間、苦勞様でした。

代って北田政美さんが採用となり、次のとおり業務分担となりますので今後共よろしくご指導、高配の程お願いいたします。

坂本豊一郎總括、業法登録・届出業務
佐藤耕平計測器受付業務、第三者損害賠償制度

越田治電設受付業務 計測器受付業務
菅原修一郎總括、業法登録・届出業務

中村郁雄資材受付業務

佐藤郁子共済・保険業務

北田政美支部業務、総務業務

お詫び

前号掲載分に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

七頁下段 六行目
七頁下段 百濟の夫余 石渚の天余

八頁中段 二行目
八頁中段 僧「慧慈」——像「慧慈」

琵琶 珍琵

